

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|--|----------------------|
| 209 | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Alcohol and drug use disorders, HIV status and drug resistance in a sample of Russian TB patients. ロシアの結核患者における、アルコール・薬物使用障害、HIV 感染状態、薬剤耐性 | |
| 執筆者 | |
| Fleming MF, Krupitsky E, Tsoy M, Zvartau E, Brazhenko N, Jakubowiak W, McCaul ME. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Int J Tuberc Lung Dis. 2006; 10(5): 565-70. | |
| キーワード | |
| 結核、アルコール、薬物乱用、HIV、薬剤耐性 | |
| 要旨 | |
| <p>ロシアの結核患者では、飲酒、抗結核薬耐性、ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染危険行動が重要な問題となりつつある。そこで本研究では、ロシアのイバノボとセント・ペテルスブルグの2つの結核病院に入院中の200名の成人男女(平均年齢41歳)を対象に、飲酒とHIV感染危険行動に関する有病調査を行った。結核の活動性は、胸部レントゲン撮影と喀痰塗抹培養検査により診断された。飲酒については入院90日前から入院日までの飲酒量をカレンダー遡及調査により評価し、すべての患者に対して入院時にHIV検査を行った。調査対象者の72%が男性であり、62%の患者がDSM-IV(第4版精神障害診断統計便覧)のアルコール乱用またはアルコール依存症の診断基準に合致した。薬物使用者は少なく、2名の患者が最近の経静脈的ヘロイン使用を報告したのみであった。また、HIV感染者は1名であった。薬物使用と性行動についてのHIV感染行動危険性評価の得点は平均3.4であった。対象者の60%に抑うつが認められ、17%は重度の抑うつを呈していた。アルコール乱用あるいはアルコール依存者はそうでないものに比べて、薬物耐性を約8倍有しやすく(オッズ比8.58, 95%信頼区間2.09-35.32)、再発者および慢性結核患者はそうでないものに比べて、アルコール乱用あるいはアルコール依存の基準に合致しがちであった(オッズ比2.56, 95%信頼区間1.0-6.54)。この調査の結果、アルコール使用障害は活動性結核加療中の患者にしばしば認められ、顕著な病的状態と関連していることが示された。アルコール使用障害と抗結核薬耐性との関連については、さらに検討が必要だろう。</p> | |